

射水市立作道小学校活動報告書

道の子ボランティア 2020



◆活動の取組状況

- **にこにこあいさつ運動**（全校、生活委員会）・**あいさつパトロール**（生活委員会）
生活委員会や縦割班の担当児童が、毎月25日一緒に玄関前に立ち、登校する児童にハイタッチをしながら挨拶をして、全校で元気な挨拶を心がけた。生活委員会では、休み時間にも校内を巡回し、あいさつ運動を元気に呼びかけた。
- **あったか言葉の花**（全校、生活委員会）
生活委員会が、「あったかい心になる言葉」を全校に募集し、学年毎に「あったかことばの花言葉（3つ）」が言えたら、花びらにシールを貼って取り組んだ。取組期間終了後の今でも、あたたかい言葉の交流が続いている。
- **エコキャップ回収**（全校、生活委員会）
毎週金曜日、家庭のペットボトルキャップの回収に取り組んだ。活動の目的を知らせたり、收拾前日に放送で呼びかけたりして継続的に活動することができた。毎年1万個以上、約25kgを回収している。
- **ちょこっとボランティア（美化活動）**（6年生、生活委員会）
学校周辺の通学路や地下道、校舎内外の清掃活動を、6年生がグループに分かれて取り組んだ。活動内容や計画は、生活委員会の6年生が他の児童と話し合っって自分たちで考えて取り組んだ。



にこにこあいさつ運動



あいさつパトロール



あったか言葉の花



エコキャップ回収

◆活動していてやりがいや喜びを感じる時

- **にこにこあいさつ運動**は、みんなが気持ちのよい挨拶を返してくれたことがうれしかったです。自分もやっていて気持ちよくなったので、いつもがんばろうという気持ちで続けることができました。
- 最初のうちは、**あいさつパトロール**が恥ずかしかったけれど、今では全校に挨拶の輪を広げようとがんばっています。低学年が一生懸命に挨拶を返してくれるので、**ちょこっとボランティア**ほくも負けれないという気持ちでがんばりました。
- **あったかことばの花**は、今年が初めてなのでうまくいくか少し不安な気持ちもありましたが、どの学年も毎日花びらのシールが毎日増えていくので、見るたびにうれしい気持ちになりました。あったか言葉が学校中にあふれ、みんなが仲良くなれるよい活動なので、このままずっと続けたいと思いました。
- **エコキャップ回収**は、キャップを持つ手が冷たくって大変でしたが、人のために役立つ活動だから最後までがんばって取り組みました。毎回、「ありがとうございます。」の言葉もしっかりと言えたのでよかったです。
- **ちょこっとボランティア**は、6年生全員が小学校への恩返し的心を込めて取り組みました。自分たちで取組場所や活動について話し合ったので、全員ががんばろうという気持ちでやり抜く事ができました。やり終えて見違えるほどきれいになった場所を見ると、「やってよかった。」という気持ちになりました。



◆最後にひとこと（今後の抱負）

コロナウイルス感染拡大防止の影響で活動を縮小して取り組んだ一年間だった。そのような状況でも児童は、「自分たちの学校を自分たちの手でよりよくしていこう」という意識で様々な活動に取り組んだ。ボランティア活動は常時活

動も多いため、「義務や責任を果たす」という意識になりがちだが、個々の活動の目的や意義について事前に確認してから取り組んだことで、児童は自分たちの取組が学校生活の改善に結び付いていることを実感し、活動意欲を高めながら自主的な態度、自治の力が全員に身に付いた。2021年は、児童が自分事として切実感をもった課題の中から児童自身が考えて取り組ませたい。そうすることで、活動への動機が明確になり、児童の活動意欲が一層高まることを期待したい。